



**安全は人命に直結
新井スマートIC現場
で日本道路の久松社長**

日本道路は、「全国安全週間」と「環境月間」に合わせ、6月29日から7月6日まで、全国10支店の現場で役員によるパトロールを実施した。北信越地区では、5日に久松博三社長、堀吉伸北信越支

店長らが新潟県妙高市の「北陸自動車道R2上越管内舗装補修工事」における新井スマートインターチェンジ（IC）の現場をパトロールした。写真。

パトロールは「安全衛生および環境意識の高揚、事故・災害防止の重要性について認識を高めること」を目的としている。

講話で、久松社長は「安全は絶対におろそかにしてはいけない。現場の安全は人命に直結していることが多く、だからこそ常日ごろからの安全管理が大切であり、危険作業を見逃さないでほしい」と呼び掛けた。

堀北信越支店長は「現場にはそれぞれのルールがある。難しい言葉や内容にせず、関係者が理解しやすいルールづくりを行い、周知して、安全・環境の事故を発生させない現場を」と述べた。

NEXCO東日本新潟支社の発注による同工事は、経年劣化によって傷んだ道路の改修、大潟スマートIC・新井スマートICの施設改良を行っている。工期は、2020年3月6日から22年3月25日まで。



建設通信新聞

2021年07月19日 003面 01版 No. 10